

目指す学校像	①将来の夢や希望を育む学校②楽しく学び、心を耕し、感動あふれる学校③保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
--------	--

重点目標	1 「真の学力」の向上と「登校する喜び」のある学校を実現する。 2 「安心・安全」で、教育環境の整った学校を実現する。 3 保護者・地域とともにある「開かれた学校づくり」を実現する。 4 教職員のICTリテラシーの向上と、研修奨励による「魅力ある」教員の育成を推進する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や、市の学習状況調査では、国語・数学いずれも全国・市平均と比べて基礎学力の向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査において、英語・数学に対して「好き」と肯定的に答えている割合も全国・市平均と比べて若干下回っている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語については「知識・技能」についても「書くこと」「読むこと」「話すこと・聞くこと」についても課題が見られる。 ○全国学力・学習状況調査の結果の分析から数学について「知識・技能」についても「各領域」についても課題がみられる。	・学ぶ楽しさを味わうことのできる学習指導の工夫、改善と基礎学力の確実な定着  ・「真の学力」を育成する学習指導の工夫、改善と主体的・対話的で深い学びの実現	①生徒の学習に関する状況について、指導主事を講師として招聘し、全国学力・学習状況調査の分析を通して課題を明確にする。 ②分析をもとに、基礎学力の確実な定着を図る取組を各教科で実施する。 ③「学ぶこと」に対する興味・関心の向上のための図書館教育の充実を図る。	①生徒学校評価「授業は、楽しく分かりやすい」の肯定的評価が90%以上であったか。 ②保護者学校評価「お子様は授業は楽しく分かりやすいと言っているか」の肯定的評価が10%以上向上したか。 ③学校図書館における貸出冊数が10%向上したか。	①生徒学校評価「授業は、楽しく分かりやすい」の肯定的評価が91.6%と目標を上回った。 ②保護者学校評価「お子様は授業は楽しく分かりやすいと言っているか」の肯定的評価が昨年度69.0%、今年度69.7%とほぼ横ばいであった。 ③学校図書館における12月末までの貸出冊数は、昨年度2,888冊、今年度4,161冊で、40%向上した。	B	①授業については、ICTを活用した授業についての校内研修を次年度も継続的に取り入れ、生徒の興味・関心を高める工夫をさらにしていく。 ②学校の授業の取組について、具体的な様子を「学年だより」等とおして発信し、日々の生徒の学習の様子について保護者にわかりやすく伝えていく。 ③読書活動の推進について、図書委員会等の協力も得ながら進めていきたい。また、朝礼等の機会を使って講話の中にも読書の魅力を発信していく。	・家庭学習が身につけていない、ということであるが、勉強する行動パターンを身に付けさせていく、ということが大切なのではないかと。 ・生徒の「授業が楽しい」という肯定的回答と、保護者の「授業は楽しく分かりやすいと言っている」の肯定的回答に差があることが気になる。→来年度は、生徒の学習への取組について広報活動にも力を入れるとのことだったので、そこに期待したい。 ・読書活動に力を入れている所は継続してほしい。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をする生徒の割合は全国・市平均を上回っている。 ○教室に入ることができず、「S o l a る一む」等を活用する生徒や不登校生徒の数は少ない。 ○施設・設備の老朽化により、修繕の必要な箇所も目立つ。 (課題) ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、個に応じて、適切に相談・支援していく体制をさらに充実させていく必要がある。 ○施設・設備の老朽化に対しては、「安全点検」を確実に実施し、危険箇所については、迅速に対応することを教職員に周知していく必要がある。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の整備  ・「安全な生活」について主体的に考えることのできる生徒の育成に向けた指導の充実	①情報端末を活用し、「スクールダッシュボード」や「アンケート」等の記録を蓄積し生徒一人ひとりの状況を継続的に把握し対応に生かしていく。 ②「S o l a る一む」の活用や専門職との連携を生かし、「誰一人取り残さない」「個に応じた学びの場」を提供する。	①生徒学校評価「学校生活は楽しいですか」の肯定的評価が90%以上であったか。 ②保護者学校評価「相談に対して誠実に対応しているか」の肯定的評価が10%以上向上したか。 ③全教員による「S o l a る一む」対応の残さない「個に応じた学びの場」を提供できたか。	①生徒学校評価「学校生活は楽しいですか」の肯定的評価は96.3%で目標を大幅に上回った。 ②保護者学校評価「相談に対して誠実に対応しているか」の肯定的評価は昨年度83.3%、今年度82.4%とほぼ横ばいであった。 ③全教員による「S o l a る一む」対応の配置と活用を積極的に行うことができた。	B	①教育課程の工夫や指導体制の整備をとおして、引き続き生徒が学校生活を「楽しい」と感じられる学校の環境を、整えていく。 ②保護者からの相談については、専門職等の活用も含めて組織的な対応を強化する。 ③S o l a ルームの活用については増加傾向にあるため、利用のルールの見直しも図りつつ、個に応じた支援も継続して取り組んでいく。	・「闇バイト」や暴力団とのつながり等、生徒を取り巻く環境は悪化しているため、そのような観点からも指導に力を入れ、生徒の安全を確保してほしい。 ・1月の学校便りにも掲載していたように、生徒が地域の中心となって、地域を守っていくという視点が大切である。 ・S o l a る一むの活用や、清掃の取組等、熱心に取り組んでいるところがすばらしい。
3	(現状) ○校運営協議会の熟議をとおして、目指す生徒像について熟議を重ね、課題を見出し「地域とともにある」田島中学校の生徒像を共有している。 (課題) ○学校運営協議会で共有した「目指す生徒像」の具現化に向けて、家庭・地域に積極的に情報を発信するとともに、その実現に向けて家庭・地域と協力した取組を実践していく必要がある。	・目指す生徒の姿を地域全体で共有することができる教育活動の広報  ・地域行事に積極的に参加することによる「地域とともにあるコミュニティスクール」の実現	①学校だよりや学校ホームページ等を通して、生徒の活動の様子を発信し、学校の教育活動や生徒の成長について共有できるようにする。 ②年5回の授業参観や保護者会を通して、学校の取組や生徒の成長の様子を公開する。	①保護者学校評価「学校の様子を伝えている」の肯定的評価が90%以上であったか。 ②保護者学校評価「各種行事等を適切に設けている」の肯定的評価が90%以上であったか。	①保護者学校評価「学校の様子を伝えている」の肯定的評価が83.5%ということで目標の90%には届かなかった。 ②保護者学校評価「各種行事等を適切に設けている」の肯定的評価が94%ということで目標を上回った。	B	①「学校だより」や「学年だより」また「学校ホームページ」をとおして学校の様子を伝えてきたが、次年度はデジタル配信を有効的に活用しさらにタイムリーな情報発信も考えていく。 ②来年度についても、適切な教育課程を実施していく。	・朝、通りかかると生徒がよく挨拶をしてくれてうれしい。 ・地域の行事に積極的に参加してくれていて、すばらしい。 ・「学校だより」等がデジタル配信になることは、親としてはうれしいが、子どもとの会話がさらになくなるという懸念もある。→「学年だより」や「学級だより」は継続して紙でだしていく。
4	(現状) ○ICTの活用については、エバンジェリストを中心に研修を重ねてきている。 ○人事評価面談を通して、研修への奨励を実施している。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差がみられる。 ○研修について、余裕を持って学ぶことのできる時間の確保と環境整備が求められる。	・校内授業研究の推進と研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励による教師の学びの促進	①ICTを活用した授業について、校内研修を実施し、効果的な活用について学ぶ時間を確保し、授業改善に取り組む。 ②人事評価面談を通して、一人ひとりの履歴に基づいた研修の受講を奨励する。 ③経験の少ない教職員に対するコーチングの視点に立った教員相互の学び合いの機会を確保する。	①学校評価「ICTを積極的に活用しているか」の肯定的評価が10%以上向上したか。 ②人事評価面談における研修奨励により、教職員の研修受講に積極的に取り組むことができたか。 ③コーチングの理論に基づく教職員相互の学び合いの場を設定し、OJTを実践することができたか。	①学校評価「ICTを積極的に活用しているか」の肯定的評価は、昨年度73%、今年度84.2%で大幅に向上した。 ②人事評価面談における研修奨励により、教職員の研修受講を積極的に勧めることができた。 ③経験の浅い教員の授業公開等の場を生かし、コーチングの理論に基づく学び合いの場としてOJTを実践することができた。	B	①本校の学校課題研究主題「授業力を高める、指導目的に応じたICTの効果的な活用の工夫」の研究を来年度も継続して進めていく。 ②年度当初の人事評価面談において、それぞれの分掌や履歴に合った研修を勧め、教員の学びの促進を継続する。 ③引き続き経験の少ない教職員に対するコーチングの視点に立った教員相互の学び合いの機会を確保する。	・土日の部活動にまだ先生方が携わっていることに驚いた。もう地域に移行しているかと思っていた。先生方の働きに感謝したい。 ・コーチングの理論が学校でも使われているというのはいいいことだと思う。

学校運営協議会による評価  
 実施日令和7年2月21日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等